

ひょうたん島通信

大槌発! 第15回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬莱島ほうらいという小さな島があります。井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から大槌町の復興、そして地域とともに復旧に向けて歩む沿岸センターの様子をお届けします。

大槌湾での海洋環境調査

西部 裕一郎

大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター沿岸生態分野 特任准教授

私は震災から1年半後の2012年10月に大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターに赴任しました。同月末に調査のために初めてセンターを訪れて以来、月2〜3回のペースで大槌町に通っています。震災前には大槌湾で研究をする機会が無かったため、以前の町の様子は知らないのですが、残された瓦礫の山や倒壊した防潮堤、そして基礎だけが残された住宅地が津波被害の甚大さを物語っており、私自身宮城県で被災したこともあって、見ていると胸が苦しくなる思いがしました。現在では、センター前にあった瓦礫も撤去され、このコラムのタイトルにもなっているひょうたん島（蓬莱島）にかかる突堤工事も着々と進んでいます。突堤で釣りを楽しむ人々や泳いでいる子供達の姿をセンターから眺めていると何となく安心するとともに、この風景が一日も早く当たり前のものになってくれることを願わずにはられません。

大槌湾では、東北マリンサイエンス拠点形成事業の一環として、係留系による環境モニタリングと調査船グランメユによる定期海洋調査に携わっており、いずれも大気海洋研究所内の方々と連携し



ひょうたん島へと伸びる突堤（2013年7月23日筆者撮影）

て研究を進めています。前者では、湾内の4カ所に水温・塩分計、流向・流速計、溶存酸素計、クロロフィル濁度計、リン酸塩計を組み合わせた係留系を設置し、表層の環境を連続的にモニタリングするシステムを稼働させています。また、後者では、私が専門とするプランクトン（浮遊生物）の生態調査を担当しています。大槌湾は年間を通して湾内外の海水交換が活発で潮通しが良いことが知られていま

すが、動植物プランクトンの季節動態にもこのような湾の特性が反映されており、様々な時間スケール（数日から季節単位）で群集が複雑に変化する様子が少しずつ見えてきました。これらの調査・観測を通じて、大槌湾における海洋環境やプランクトンの変動メカニズムを明らかにし、養殖業をはじめとする漁業の再建に少しでも貢献できればと考えながら、これからも大槌に通い続けようと思います。

ぴーちゃん日記

ここはNY? それとも?

震災後の大槌町に戻ってきたらちょっと違和感が……。何だか黄色い車を目にするのが多くなったなあ……と思いきやよく見るとその正体はタクシーでした。提灯には「大安」の文字、そう「だいあんタクシー」です。え? 何でその色? と思い運転手さんにインタビュー!

震災でタクシー車両全てを失った大安さん。3か月間営業出来ませんでした。被災地には全国から支援車両が集められ、

県タクシー業協会では真っ先に大安さんに車両提供してくれたので業務を再開することが出来たそうです。検討を重ね、被災地で目立つようにと黄色一色の車両になりました。支援車両2台だけでスタートしましたが、現在は8台まで増えているそうです。皆さんも大槌町にいらした際は、黄色い大安タクシーを利用してみてはいかがでしょう? 気分はNY?!



まるでNYのようなカラーリング